## 「ガン哲学外来＆樋野先生」との出会い

がん哲学外来カフェ in 常盤台 スタッフ 岩崎 秀子

2016 年 11 月、お茶の水クリスチャンセンターでクリスチャンのための『ガン哲学外来カフェ』説明会があり、私はこの説明会に出席することとなりました。

私が所属している、東京都板橋区の常盤台バプテスト教会での『ガン哲学外来カフェ』の本格始動にあたり、カフェスタッフとして参加してくれないかとお誘いをいただきました。しかし、「ガン哲学外来カフェ」とは？「カフェスタッフ」とは？と、全く知りませんでした。私は、お誘いいただいたことがとても感謝なことだと思いましたし、新しい活動に大変興味がわき、そして、2016 年 11 月の説明会への出席となりました。

その説明会で同じテーブルになった他教会の牧師さんが、初心者であるわたしに数冊の樋野先生の著書を薦めてくださり帰宅後早々に読みました。読み進めていくうちに涙が止まらなくなり、樋野先生の書かれた言葉ひとつひとつに感銘を受け心が癒されていくのを感じました。心が癒されるという初めてに近い感覚に戸惑いを覚え、もっともっと本を読みたいと思うと同時に『ガン哲学外来』に対する知識を深めていきたいと思いました。今年に入りさまざまなカフェに参加し、市民学会にも参加し、只今、勉強真っ最中です。

・詳細は　http://www.iwate-np.co.jp/
・問合＆申込：岩手日報社事業部「県がんフォーラム」係（Tel：019・653・4121　Fax：019・653・9153）
※ 当日はＪＲ矢幅駅から会場まで無料送迎バスあり。

## 軽井沢南教会“メディカル・カフェ”

小諸市　　平野 性一郎

11 月 17 日の午後、「軽井沢南教会・メディカルカフェ」がオープンされることを知り、美しい紅葉が始まった林の路を辿って教会まで駆け付けました。

宮澤牧師さん夫妻がストーブを焚いて美味しいお茶とお菓子を用意して待っていて下さいました。地元の方を始め、「佐久ひとときカフェ」のメンバーたちも集まってアットホームなメディカルカフェが開かれました。私は別室で樋野興夫先生との個人面談を受けることが出来、大変感銘を受けました。

私は 66 歳の時に胃がんの手術を受けて胃の三分の二を切除しました。73 歳の時には皮膚がんの一種である乳房外パジェットを患い、入院して手術を受けました。以来、自分はがん体質で次はどこに現れるのか、二つのがんの関連についても心配でした。

樋野先生は二つのがんの関連については病理学者として明確に否定されたので安心しました。先生は私の話をよく聞いて下さり、永年の胸の閊えがおりて先生の大のファンになりました。

ところで、私の妻は網膜色素変性症と言う難病で視野が五度以下となり白杖を使い始めました。ＪＲＰＳ（日本網膜色素変性症協会）の会に所属して年に一度の医療講演会を実施したり会員どうしの集いを企画していますが、難病と言われるものは遺伝子の変異で発病することが多く原因も不明です。薬もほとんど無いので患者は悩み、うつ症状になることが多いです。

その救いが「がん哲学外来の理念」にあると思います。樋野先生のがん哲学の著書を皆さんと読みあいながらこれからのことを考える毎日です。

「がん哲学外来メディカルカフェ in 軽井沢南教会」が 0pen しました。

カフェ主宰の宮澤豊牧師と樋野先生

薪ストーブが焚かれ、温かい雰囲気のメディカルカフェでした。

司会は万座温泉「日進舘」の市村雅昭さん。